

平成28年4月18日

各位

和歌山大学教育学部附属特別支援学校
校長 林 修
(公印省略)

平成28年度 公開研修会について (御案内)

陽春の候、皆様方におかれましては、益々御健勝のことと存じます。

平素は、本校の教育に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度公開研修会を下記のとおり開催します。大変お忙しいとは存じますが多くの方々の参加をお願いします。

なお、申し込みは、5月27日(火)までとなっています。必要事項を御記入の上 FAX もしくはメールにてお願いします。

記

1 日 時

平成28年5月31日(火) 15時30分～17時00分(受付15時～)

2 会 場

和歌山大学教育学部附属特別支援学校

〒641-0031 和歌山市西小二里2-5-18

3 講 演

「合理的配慮は本人の『声』を聴くことから始まる」

講師 和歌山大学教育学部 准教授 古井 克憲 先生

4 講演要旨

2016年4月に障害者差別解消法が施行されるに当たって「合理的配慮」という言葉が特別支援教育の現場ではよく聞かれるようになってきました。学校での合理的配慮は、教員が一方的に、障害のある子どもに必要な指導や支援を決めて行うのではなく、子どもや保護者の「声」を聴き、両者の対話をもとに必要な調整をしていくことから始まります。しかしながら、知的障害や発達障害など「見えない障害」のある人の中には、「声」を出すこと自体が難しい人もいます。彼/彼女らの声なき「声」に耳を傾け、必要な「合理的配慮」とは何かを、日常の教育の中で見出していくことが教員の役割として求められます。このことは何も新しいことではなく、教育現場でも日々実践されていることだと思います。今回は、「合理的配慮」という観点から、本人の「声」を聴くこととはどういうことかについて考えてみます。

5 その他

- ・駐車場は限りがありますので、できる限り、公共交通機関を御利用ください。
- ・公開研修会に参加申し込みされる方で、手話通訳等合理的配慮を希望される方は、5月10日(火)までにその旨を御連絡ください。